旧戸島家住宅

きゅうとしまけじゅうたく

福岡県柳川市

旧戸島家住宅は、柳川藩で中老職の要職に就いていた吉田兼儔の隠居後の住処として庭園と共に建築した葦葺二階建ての建物で、後に藩主の立花家に献上された御茶屋として使われたといわれている。
維新の頃に藩兵の調練所として徴発された宅地の代償として立花家から由布氏に下賜され、明治１５（1882）頃に由布氏の転居に伴い戸島家の所有となった。
その後は主に住宅として使用されたが、柳川地方の武家住宅の典型例として福岡県の文化財に指定された。
数寄屋風の意匠を持つ葦葺屋根の建物と掘割の水を引き入れた池を持つ庭園がつくる静かで落ち着いた趣ある空間が見事である。

見どころ

桜と鳩とししゅうからが描かれた杉戸絵。
仏間の棚の扉には張謂の漢詩が彫られ、扉の両側に竹で箕状に編んだ枠。
茶室や座敷には竹柱、竹の落し掛、竹の違い棚など竹を主題意匠とし使われている。

入側（東）

仏間東面

座敷西面

屋根は、東面南半と南面が葦、目板葺、杉皮葺の三段。茶室庇屋根と桁間の壁は竹網壁で竹の意匠を強調。

式　台

三日月の竹下地窓、竹の欄間など江戸後期の流行を反映して、随所に文人趣味の意匠がみられる。

建物名称	旧戸島家住宅
建築年	1828年（文政11年）
構造形式	木造、入母屋、葦葺
所在地	福岡県柳川市鬼童町49番地3
電話	0944-73-9587
HP	http://www.city.yanagawa.fukuoka.jp
開館時間	9：00～17：00 入館16：30まで 火曜休館（詳細ＨＰ参照）
アクセス	西鉄バス「御花前」バス停下車徒歩2分　駐車場無
備考	福岡県指定文化財・庭園は国指定名勝

旧木下家住宅（堺屋）

福岡県八女市

きゅうきのしたけじゅうたく（さかいや）

木下家は、江戸期初期から始まり「堺屋」（さかいや）の屋号で、代々酒造業を営み、大きく栄えた商家である。

現在、離れ座敷、土蔵、倉庫が保存されている。

「離れ座敷」の妻壁には「一富士、二鷹、三茄子」のめでたい鏝飾りが施され、内部では黒柿の床柱、屋久杉の一枚板で造られた欄間など贅沢な造りとなっている。

屋根裏の棟札には明治３９年旧暦１月３１日に建設に着手、明治４１年旧暦３月１８日完成。建設に係る大工棟梁は長峰村吉田（現八女市吉田）の坂田茂太郎、左官は井上幾平と記されてる。

往時は貴賓客のための応接や宿泊などに使われていた。この離れ座敷の建設前に乃木希典大将が宿泊した記録が残っている。

見どころ

新奇な意匠で飾られた座敷では折り上げ天井、一富士二鷹三茄子の意匠。手洗所と小便所床面の植物文様の磁器タイルなど様々な発見を楽しむ事ができる。

座敷南面の庭園には水琴窟があり、庭を囲む土塀の開口部には扇形を採り入れ、意匠の細部に気概が感じられる。

建物名称	旧木下家住宅（堺屋）
建築年	1908年（明治41年）
構造形式	木造、入母屋、桟瓦葺
所在地	福岡県八女市本町184番地
電話	0943-23-7611
ＨＰ	http://www.city.yame.fukuoka.jp
開館時間	10：00～17：00　月曜休館（詳細ＨＰ参照）
アクセス	西鉄、堀川バス「福島」バス停下車徒歩12分 駐車場有
備考	八女市指定文化財

旧伊藤伝右衛門邸

きゅういとうでんえもんてい

福岡県飯塚市

筑豊の著名な炭鉱経営者であった伊藤伝右衛門の本邸として明治30年代後半に建造。大正初期、昭和初期に数度の増改築がおこなわれた。
高い塀は旧長崎街道に面しており、昭和2年に福岡市天神町にあった別邸（通称銅御殿）から移築された長屋門や、伊藤商店の事務所が目を引く。
邸宅は南棟（正面）北棟（庭側）、両者を結ぶ角之間・中之間棟、玄関・食堂棟、繋棟の家屋5棟と土蔵3棟からなり、池を配した広大な回遊式庭園を持つ近代和風住宅である。
和洋折衷の調和のとれた美しさ、当時先進的だった建築技術や繊細で優美な装飾を随所に見ることができる。
また、柳原華子（白蓮）が伝右衛門の妻として約10年過ごしたゆかりの地で、伝右衛門や白蓮に思いをはせる場でもある。

見どころ

アールヌーヴォー調のマントルピース、イギリス製のひし形のステンドグラスのある応接間、一畳たたみを敷き詰めた長い廊下等、様々な芸術的技法を取り入れた、繊細で優美な装飾を随所に見ることができる。

入側（東）

庭園は導入部の馬車廻しを中心とする広場をはじめ、建築群に挟まれた中庭の部分、敷地北半分を占める大規模な主庭の3つの部分から構成される。そのうち、特に主庭は、流れ及び2つの池泉の背後に緩やかに盛り上がる築山などから成り、主屋からの展望を意図した庭園であるとともに、様々な景を楽しむことができる回遊式庭園でもありる。
池泉に架かる石造の太鼓橋、2基の石造噴水、敷地の西北隅に立つ石塔、随所に据えられた様々な形式の石燈篭、築山の頂部に建つ茅葺八角形屋根の四阿など、近代の回遊式庭園として十分な質と量を誇る庭園景物を見ることができる。

建物名称	旧伊藤伝右衛門邸
建築年	明治30年代後半
構造様式	木造、入母屋、瓦葺
所在地	福岡県飯塚市幸袋300番地
電話	0948-22-9700
HP	http://www.city.iizuka.lg.jp
開館時間	9：30～17：00　水曜休館（詳細ＨＰ参照）
アクセス	ＪＲバス「幸袋本町」バス停下車徒歩2分　駐車場有
備考	飯塚市指定文化財・飯塚市指定名勝

旧中尾家住宅（鯨組主中尾家屋敷）

佐賀県唐津市

きゅうなかおけじゅうたく（くじらくみぬしなかおけやしき）

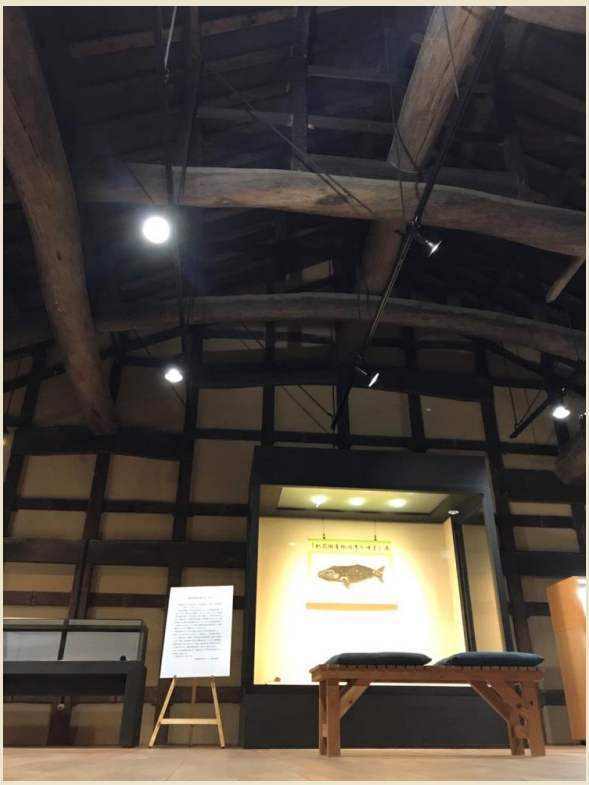
主屋外観

鯨組主中尾家屋敷は、江戸時代に鯨組主として巨万の富を築いた中尾家の屋敷として建てられた建物である。
特に主屋は当時の姿をよく残しており、佐賀県の重要文化財に指定されているほか、唐津市の景観重要建造物にも指定されている。

主屋外観（中庭より）

見どころ

江戸時代に唐津藩呼子に本拠を置き、170年に渡り鯨組主として栄えた中尾家の屋敷として建てられた建物。
2008年より保存整備工事が始まり、2011年より一般公開されている。
平入りの豪壮な造りの主屋は、吹抜けの広い通り土間により建物の歴史が感じられる。
また、勘定場跡の建物は、見事な小屋組にて建てられており、「中尾家と捕鯨」に関した貴重な資料と共に是非一見して頂きたい。



勘定場跡内観

【主屋】

主屋は、平入りの切妻造二階建てで、棟高9.135m、延べ床面積374.26㎡と非常に大きな町屋建築である。復原工事に先立つ調査によって、主屋の変遷がわかった。主屋の中央部は、柱や壁、建具が二重になっている。これは、主屋が１棟ではなく、北棟と南棟の建築時期が違う２棟の建物が一体化していることを物語っている。北棟が先に建築され、のちに南棟が増築されたことがわかった。建築された年代ははっきりしないが、主屋の建築年代は18世紀の前～中期にさかのぼると思われる。

【勘定場跡（本倉）】

現在の建物（本倉）の修理工事中に地下からかつての勘定場の基礎と思われる石列が発見され、建物の位置が特定できた。現在の建物（本倉）は、明治期に現在地に建てられたことがわかったが、新屋敷から移築してきた江戸期の建物との説もある。

旧中尾家住宅ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄより引用

勘定場跡内観

建物名称	旧中尾家住宅(鯨組主中尾家屋敷)
建築年	18世紀前～中期頃(2011年保存整備)
構造・様式	木造二階建て
所在地	佐賀県唐津市呼子町呼子3750番地3
電　話	0955-82-0309
Ｈ　Ｐ	http://www.city.karatsu.lg.jp/唐津市HP
開館時間	午前8時45分～午後5時
アクセス	唐津駅よりバスで呼子まで20分
備　考	佐賀県指定文化財 休館日：水曜日(祝日の場合翌日)・年末年始

Fountain Mountain（旧一増本店）

佐賀県西松浦郡有田町

ファウンテン マウンテン（きゅういちますしょうてん）

旧一増本店棟は、有田内山の伝統的建造物群保存地区本通りより、上幸平橋手前交差点を上有田駅に抜ける、県道上有田停車場線沿いに入り、200m程の中樽橋前に位置する。
建物の規模は全体では、間口11.9間、奥行き12.5間ありその中のA棟は、間口（桁行）7.5間、奥行き（梁間）が6間で、西側奥に奥行7間、幅3間のA棟で構成される。
B棟は、A棟南西に繋がり、間口（梁間）2.7間、奥行（桁行）7.4間となる。
C棟は、間口（梁間）２間、奥行（桁行）3.4間の建物である。西側隣地崖側に隣接するD棟は、幅（桁行）10間、奥行（梁間）4間でA棟の東側よりC棟に隣接している。

（A）木造２階建て、入母屋（１階切妻）造り、桟瓦葺き、黒漆喰塗り（玄関廻り白漆喰塗+腰タイル張り）（１階中庭廻り白漆喰、その他下見板張り）
（B）木造２階建て（一部鉄骨造補強）切妻造り、桟瓦葺き、１階部分サイディング張り
（C）木造平屋建て、切妻造り、桟瓦葺き、下見板張り
（D）木造３階建て、切妻造り、下見板張り（妻側：トタン張り）

見どころ

「有田焼」というブランド名は、輸送手段が船から電車等へ移った明治以降に全国へ発信され、広まっていった。
この建物は上有田駅からうちやま地区の商店街へ向かう入り口となる場所に位置し、有田焼が陸路で日本全国に発信された時代の表玄関でもあり、商人たちが住まう空間と仕事場が同居する大規模で重要な建物として、歴史的資料としても重要なものだと考えられる。
明治から大正・昭和と時代の変遷の中で、焼き物隆盛期から過渡期へと、地場産業の発展や流れを知る上でも貴重な建築物だと読み取る事ができる。
現在は、セレクトショップ併設のカフェとなっており、座敷などで不定期ながらいろいろなイベントが仕掛けられている。建物の重厚さを損なわないシンプルな使い方で、落ち着いた癒しの空間となっている。

建物名称	Fountain Mountain （旧一増本店）
建築年	昭和10年頃
構造・様式	木造2階建て、入母屋、桟瓦葺き
所在地	佐賀県西松浦郡有田町中樽1-10-8
電　話	0955-25-9249
Ｈ　Ｐ	www.fountainmountain.jp
開館時間	11：00～17：00 休館日：月曜・火曜（祝祭日）
アクセス	波佐見有田ICより車で8分（駐車場有） JR佐世保線・上有田駅下車徒歩3分、JR有田駅から車で8分

ギャラリー喫茶　欒

佐賀県佐賀市

ぎゃらりーきっさ　まどい

１階喫茶店カウンター

見どころ

古民家風ではなく、実際の古民家をサス組、土壁など伝統技術によって再生されている。
なるべく元の建具を使用し、新規の建具も古建具を探して取り付けられている。
更にオーナーのセンスが光る室礼が、古民家の魅力を引き出している。
新建材を多用しないが故に生まれる重厚感があり、これからも受け継がれる価値のある建物となっている。

また、右も左も似たような住宅が建ち並ぶ住宅街に古民家が移築されたことで、古民家の存在が際立ち、「ギャラリー喫茶　欒」は訪れる人々に古き日本の伝統家屋の良さを再認識させる場所になっている。

１階カルチャー・イベントスペース

１階喫茶店・ギャラリー

佐賀の山間にあった茅葺きのミカン農家の住まいを、ギャラリー喫茶として街なかに移築再生している。
移築先が建築基準法により、茅葺き屋根にできない地域だったため、茅葺き屋根を鉄板で覆ったような屋根形状になっている。
外壁は土壁下地の漆喰仕上げに腰板張り。
内部は吹抜けで、小屋裏も茅葺き屋根に見えるようにサス組、竹組がされている。
１階の半分は喫茶店兼ギャラリー、半分はカルチャー教室やイベントスペース、２階はギャラリーとして使われている。

2階ギャラリー

建物名称	ギャラリー喫茶　欒
建築年	2007年
構造・様式	木造二階建て
所在地	佐賀県佐賀市東佐賀町14-30
電　話	0952-28-0752
Ｈ　Ｐ	http://madoimadoimadoi.blogspot.jp/
開館時間	11：00～19：00（月曜定休）
アクセス	JR佐賀駅から車で10分（駐車場有）
備　考	

心田庵

しんでんあん

長崎県長崎市

茅葺屋根の母屋

東屋（あずまや）

茅葺門（内側）

和室から庭を望む

見どころ

心田庵は長崎の茶道において重視された経緯があり、天和２年（１６８２）の「心田菴記」や文化14年（１８１７）の「心田菴図」などの資料も残されている。江戸時代からの由緒ある日本庭園（池泉回遊式庭園）は春は新緑に、秋は紅葉に包まれ、風情がある景色と市内では非常に珍しい茅葺門、茅葺建物があり、皮の付いたままの木や丸太が柱として使用されていることなど、数寄屋造りの特徴を持っている。閑静な住宅地の路地裏に茅葺門だけが見てとれ、その奥にこのような広い敷地（約478坪）と茅葺建物が残されているとは想像しがたい。長崎市内に残る貴重な歴史的、文化的な遺産で、平成25年2月に長崎市の史跡に指定されている。

心田庵は、何兆晋（がちょうしん）が長崎片淵郷（現在の片淵2丁目）に建てた別荘である。何兆晋は何高材（がこうざい1598～1671年）の長男。父、何高材は帰化唐人であり日中貿易で財をなし、崇福寺大雄宝殿（国宝）をはじめ長崎の清水寺本堂（国指定重要文化財）を父子で寄進したことで知られている。また、石橋の寄進などにも尽力している。

何兆晋は万治（まんじ）元年（1658年）に唐小通事（とうこつうじ）となり、寛文8年（1668年）まで十年間つとめている。心田菴記の作者である長崎出身の儒学者、高玄岱（こうげんたい1649～1722年）は「およそこの心田庵は他と大いに異なり、奥深く穏やかな外観であり、拡がって隠れなく見える。この庵には、あらゆる所に細工を尽くしているが、肘掛けや敷物など贅沢なものはない。」「わずかな土地だが、心の田を子孫に残し耕させる余地があり、欠けるところはない。」「これはいわゆる心田と言うべきか。それゆえ、君の心田は千頃万頃（せんけいばんけい）の広さであり、まさに子が種をまき、孫が耕すのみなのであろう。」と記している。質素な中に心を豊かにする美しさが感じられると、心田庵の名の由来が語られている。江戸後期になると心田庵は唐通事をつとめた茶人、神代松蔭（くましろしょういん　1754～1833年）の別荘となり、しばしば茶事が催されていた。

茶室

茶室

表玄関

和室床の間（右奥は茶室）

日本庭園（池泉回遊式庭園）

建物名称	心田庵
建築年	寛文8年（1668年）推定
構造・様式	茅葺建物　木造平屋・数寄屋
所在地	長崎市片淵2丁目18番18号
電　話	095-829-1193（長崎市文化観光部文化財課）
Ｈ　Ｐ	http://www.city.nagasaki.lg.jp/
開館時間	一般公開　春・秋（各20日間ほど）9時～17時　有料
アクセス	心田庵入口バス停徒歩3分　新大工町電停徒歩10分
備　考	長崎市指定史跡
	茅葺建物（和室・茶室）と庭園の貸出（申込必要）

湧水庭園　四明荘

ゆうすいていえん しめいそう

長崎県島原市

庭から見た透明度の高い池と四明荘（写真：島原市提供）

池へ張り出した座敷から庭園を眺める

明治後期に伊東元三氏（当時開業医師）の別邸（宅地187.8坪、木造瓦葺約40坪）として建築され、四方の眺望に優れていることから「四明荘」と名付けられた。庭園は昭和初期に禅僧を招いて造られたと言われ、京都の庭園などの枯山水式庭園と対極にあるような湧水を生かした近代庭園である。透明度の高い美しい水に色とりどりの鯉が優雅に泳ぐ庭園の池へは一日に約3000トンもの清水が流れていて市民に親しまれてきた。座敷は正面と左側面の二方が池へ張り出して縁を廻しており、一段高い屋敷から庭園を見下ろすと座敷と庭園が一体となり、ここでしか見られない独特の美しい景観が広がる。

見どころ

正面の庭だけではなく、居室棟裏手には観賞式の池泉式庭園がある。その四角形の池には四つの中島があり表の庭園とはまた違った趣がある。澄んだ水の周りは低い石積で護岸され、池底はいずれも砂敷き、池の中には沢飛石が配置されている。くぐり門から一歩中に入るとピンと張りつめた静寂が当時にタイムスリップしたような感覚になる。入口付近には底まで見える程の透明度を誇る湧水口があり、こんこんと湧く様子を見ることができる。国の登録記念物、登録有形文化財となり、「鯉の泳ぐまち」の一角にある人気の観光スポットとなっている。

くぐり門（表）

くぐり門

入口付近にある底まで見える透明度を誇る湧水口

池で優雅に泳ぐ

座敷の床の

居室棟裏手にある観賞式の池泉式庭園

沸々と湧き出る美しい水に泳ぐ

島原半島は随所で水が湧き出ていて、上下水道や農業用水などほとんどを地下水でまかなっているほど湧水に恵まれた町である。特に半島の中央にある雲仙地溝内に特に湧水が多く、島原市街地では60ヶ所以上の地点から合計日量22万トンの湧水がある。島原市は水緑都市モデル地区に指定され、島原湧水群は「日本名水百選」「水の郷百選」にも選定されている。湧水群の多くは1972年の眉山崩壊後に出現したと伝えられる。この「四明荘」は島原市の中心街(鯉の泳ぐまち)にありながら静寂な佇まいをかもし出し、邸内にある池からは沸々と湧き出る大小の池が３つある。1日約3,000トンの湧水量を誇る池には鯉が泳ぎ、庭内には赤松や楓など色々な植栽が施されており、見るものすべてを魅了する。

建物名称	湧水庭園　四明荘
建築年	明治後期
構造・様式	木造平屋　数寄屋造り
所在地	長崎県島原市新町2丁目125番地
電　話	0957-63-1121
Ｈ　Ｐ	http://www.shimabaraonsen.com/
開館時間	9：00～18：00（休館日無）
	入場料　大人300円　小人150円
アクセス	「商工会議所前」バス停　徒歩5分
備　考	国登録有形文化財

茶室「閑雲亭」

ちゃしつかんうんてい

長崎県平戸市

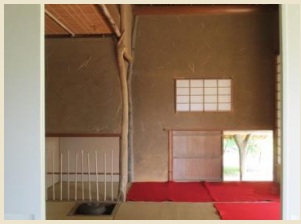
茶室閑雲亭全体の外観　（公）松浦史料博物館より提供

松浦史料博物館は昭和30年（1955）10月西海国立公園の指定と前後し、松浦家39代陞（すすむ）氏により資料等を寄贈され設立されました。建物は鶴ヶ峰邸と称して明治26年（1893）に建てられた当主の私邸であったものである。（県指定有形文化財）

茶室の内部　（公）松浦史料博物館より提供

見どころ

「閑雲亭」は主として千利休の創意に基づく純然たる草庵茶室である。従って建築の資材並びに方法は，農村庶民の質素な住居様式を取り入れ、殆ど自然の材料を似て構築されている。屋根は棟、梁、桁を除き全部竹材を用い、葭葺とし、軒柱は自然の丸太柱を組み合わせ、藁縄で固定し、ほとんど釘は使用していない。このように草庵様式ではあるが、亭の要素も完備した草庵茶室は稀である。その為に全国各地から大勢の観覧者やまた茶室研究の専門家が来訪し、調査研究するなどかなり世に知られたており、これからも慎重な維持管理が必要である。



茶室「閑雲亭」は元来明治26年（1893）、松浦家37代松浦詮（号・心月）は、御館跡に居を構えることを計画し、明治26年（1893）に竣工、鶴ヶ峰邸と名付けた。鶴ヶ峰邸の庭園一隅に自らの設計による茶室「閑雲亭」を建立した。しかし残念ながら昭和62年（8月の12号）の台風により倒壊した。現在の「閑雲亭」は昭和63年9月に佐賀市の宮大工宮路肇氏によって再建完。従来の萱葺を葭葺に替え、目に見えない箇所に台風に対する補強をしているが、他は忠実に復元している。床面積は19.83㎡あり、お茶とお菓子（平戸の名菓）を楽しむことができる。

建物名称	茶室「閑雲亭」
建築年	1893年（明治26年）　昭和63年再
構造・様式	木造　庶民の質素な居住様式
所在地	長崎県平戸市鏡川町12番地
電　話	0950-22-2236
Ｈ　Ｐ	http://www.matsura.or.jp/
開館時間	9：30～17：00（12月29日～1月1日休館）
アクセス	平戸桟橋バス停より徒歩5分
備　考	国登録有形文化財

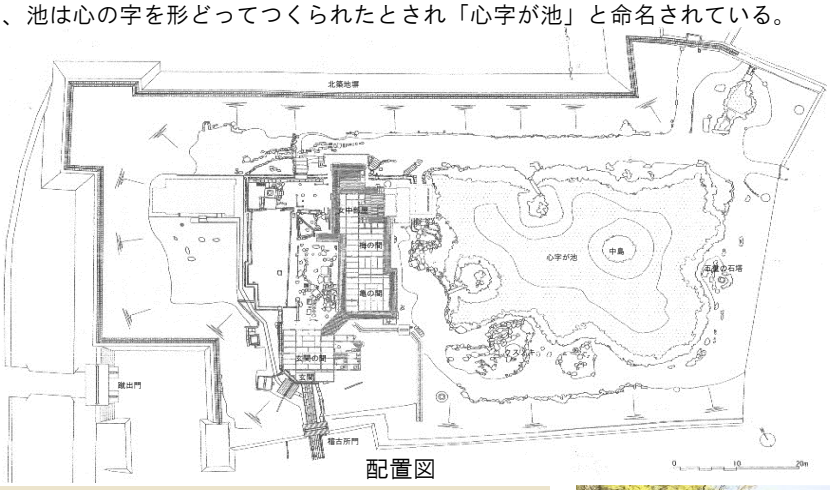
石田城五島氏庭園隠殿屋敷

長崎県五島市

いしだじょうごとうしていえんいんでんやしき

五島家第30代盛成は、福江城（石田城）の 工事が八分どおり竣工すると安政5年(1858) 1月21日、子息の盛徳に家督を譲って藩政を 辞し、城郭内にある隠殿として邸宅を建て、この東側に京都の僧、全正に庭園を作らせた。全正は金閣寺の丸池を模倣し、用い石は鬼岳の溶岩を多用した。盛成はことのほか亀を好んでいたので、池護岸、中島などの随所に亀似た石を据えているのが特徴で、池は心の字を形どってつくられたとされ「心字が池」と命名されている。

玄関

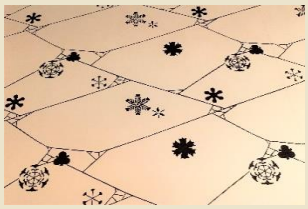


配置図

亀の間より庭園を眺める

見どころ

隠殿屋敷は、第35代当主典昭により、平成28年(2016)2月29日に修復工事が完了した。亀の間、梅の間、神様の間の表具・建具(現物は大変貴重なものであり、今後の経年・活用によってこれ以上破損することを防ぐ意味で、別途保管されている)は既存に倣い、本紙複製、張り直しが行われているが、版木を制作して刷り込んで製作されたものである。



亀の間の唐紙と釘隠し

梅の間の唐紙と釘隠し

南化粧部屋の建具

女中部屋からの見通し

襖の取っ手

屋敷内の井戸

建具

石灯篭

樹齢800年を経たクスノキ（パワースポット）と隠殿屋敷外観

亀の間

15畳敷で北側にトコとトコ脇を並べ、トコ柱はカリンの曲柱、地板はケヤキの1枚板を使用する。トコの東側は地板を上げ、その上部には吊束に竹状落掛を差して北東面に障子を建込み独特の書院とし、トコ脇では天袋吊る。公的な接客に使用されたと思われる。

梅の間

8畳敷で、北側にトコとトコ脇を並べ、「亀の間」と同様にするが、落掛けはアーチ状に拵え「仏間」とは続き間とし、当主の居間として使われたものと思われる。腰壁障子の桟組を丁字崩し、書院欄間の桟組は万字組子とする。間仕切り欄間は黒漆縁に万字入梅紋。

建物名称	石田城五島氏庭園隠殿屋敷
建築年	1861年（文久元年）
構造・様式	木造２階建て・書院造り
所在地	五島市池田町1-7（無料駐車場８台可）
電　話	0959-72-3519
Ｈ　Ｐ	なし
開館時間	9：00～17：00（毎週火曜日・水曜日休園）
アクセス	福江港より徒歩10分。福江空港より車で10分。
備　考	国指定名勝

旧細川刑部邸

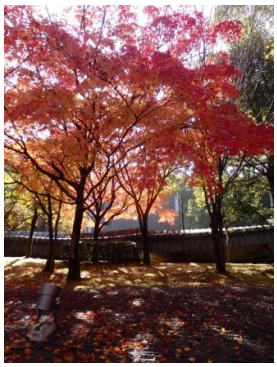
きゅうほそかわぎょうぶてい

熊本県熊本市

熊本県指定重要文化財であり、平成5年に子飼から熊本城三の丸に移築復元された。細川刑部家（別名長岡刑部家）は細川家3代（肥後藩初代）忠利の弟、刑部少輔興孝が正保3年（1646年）に2万5千石を与えられ興したものである。明治6年（1873年）城内の本邸を鎮台に接収された刑部家はここを本邸としている。建坪約300坪の旧邸の中心は玄関、表客間、書院、春松閣で、それに茶室観川亭、長屋門、蔵、台所などが付属し、大名屋敷の形式を整えており、全国でも有数の上級武家屋敷としての格式を持っている。

見どころ

現在、熊本地震の影響で休館中であるが、紅葉の季節、梅の季節には期間限定で外庭が無料公開されている。無料公開では、多くの観光客が来場しており、復旧を望む声が多い。建物の復旧はまだまだ先となるようだが、公開の際には、是非、足を運んでいただきたい場所である。



↑熊本地震の影響で倒れた状態の塀

熊本地震で被災したため、現在、建物の内部は公開されていない。下記写真は被災前に撮影されたものであるが、上級武家屋敷としての格式があり、建坪300坪の広さを持つ建物には多くの見どころがある。下記の化粧ノ間、表御書院は、ほんの一部に過ぎない。
熊本城の復旧作業が進む中、このような魅力ある和の空間を持つ建物についても早く復旧されることを望む。

化粧ノ間

表御書院

建物名称	旧細川刑部邸
建築年	正保3年（1646年）　1993年（平成5年）に移築
構造・様式	木造
所在地	熊本県熊本市中央区古京町3-1
電　話	096-352-5900
Ｈ　Ｐ	http://kumamoto-guide.jp/kumamoto-castle/
開館時間	熊本地震の影響による休館中
アクセス	ＪＲ「熊本駅」から車約15分もしくは熊本城周遊バス（通称：しろめぐりん）「博物館・旧細川刑部邸前」下車
備　考	写真：外観　熊本城総合事務所（熊本市） 内観　熊本通信HP

松浜軒

しょうひんけん

熊本県八代市

八代城主三代松井直之公が延宝年中(1670年)黄檗宗慈福寺を建立したが、その後、寺を廃し梶畑になっていた所に、元禄元年(1688年)の春、生母崇芳院のために御茶屋を建て、松浜軒と称した。通称は「浜のお茶屋」である。
明治３年に八代城が国有となったため、十代章之が増築して松浜軒に住居を移し現在に至っている。
古くからあった赤女ヶ池、赤女ヶ森がそのまま庭園にとりいれてあり、森の中に伏見の稲荷大明神を勧請した稲荷社をはじめ、歴代が子供たちの健やかな成長を祈念した児宮、菅原道真公を奉祀の天神社、愛馬の守護神馬頭観音が鎮座する。
赤女ヶ池、赤女ヶ森の謂れは古く、群れ泳ぐ「鯉」の古名に因んでの由来といわれ、大変縁起の良い所としても知られている。

見どころ

創建当時は松林越しに八代海や雲仙を望む雄大な庭園であった。
園内の池には伸びやかな石の配置が行われ、築山（つきやま）の石組みや桂離宮天橋立（かつらりきゅうあまのはしだて）の景色に似た造形など、大名庭園として変化に富んだ風情をつくり出している。
国の名勝にも指定されており、雄大な海と遥かな景色を取り込んだ意匠を持つ、江戸時代初期の大名庭園として貴重なものである。
６月上旬には約5,000本の肥後花菖蒲が見頃を迎え、人々の目を楽しませる。一般的には菖蒲が有名であるが、秋の紅葉時期もとても風情があり、一見の価値がある。

また、松井家に伝わる家宝を展示する松井文庫の資料館があり、宮本武蔵ゆかりの「戦気」の軸や手彫りの木刀も展示されている。

松井神社境内にある臥龍梅

（肥後花菖蒲）
肥後花菖蒲は肥後六花の一つ。花弁が大きくて幅広く、大型の花を咲かせるのが特徴。江戸花菖蒲の華麗さ、伊勢花菖蒲の優美さに対し、力強く男性的であると言われている。古来、肥後花菖蒲は鉢植えで座敷鑑賞用だったが、松浜軒のものは特別に地植えが許された。

茶室の縁側にたてられている戸のガラスは大正時代のものであり、ゆるやかな表面が悠久の時を感じさせてくれる。現在でも台風時に雨戸が立てられることがないが、周囲の樹木が守っているのか、ガラスが風雨で割れたことはないそうだ。
毎年６月の第１日曜日には肥後古流のお茶会が行われている。

※建物内は一般公開されていない。

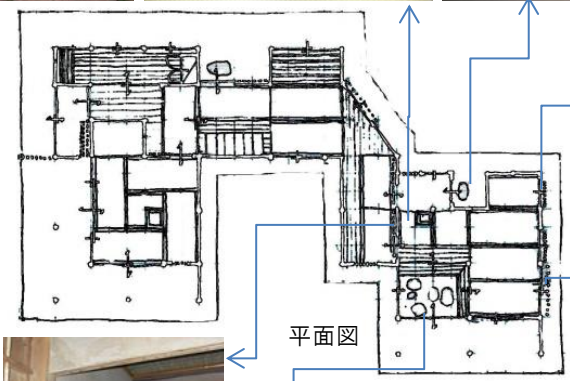
建物名称	松浜軒
建築年	元禄元年（1688年）
構造・様式	木造
所在地	熊本県八代市北の丸町３－１５
電　話	0965-33-0171
Ｈ　Ｐ	http://www.city.yatsushiro.lg.jp/
開館時間	午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで）
閉園日	月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、旧盆
アクセス	九州自動車道八代ICから八代港線経由15分。駐車場あり
備　考	観覧料　大人500円　小中学生250円　団体割引あり
	写真：八代市文化振興課、建築士会熊本 下野明希子

仰松軒

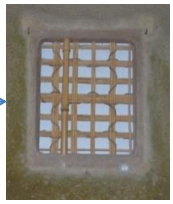
こうしょうけん

熊本県熊本市

仰松軒は、茶道に造詣の深かった細川忠興（細川家2代）の原図に基づき大正12年に復元されたものであり、風流を極めた造りとなっている。茶室の前庭に苔むした石灯籠と手水鉢があるが、それは京都で忠興が愛用したものである。ことに、手水鉢は豊臣秀吉や忠興の茶の師である千利休も利用したと伝えられている。歴代の細川藩主は、この手水鉢を参勤交代の道中にも持参し、宿ごとに茶をたててはその風情を楽しんでいたとのことである。来場の際は建物と共に、この石灯籠と手水鉢を見ていただきたい。



平面図



↑下地窓

↓連子窓

見どころ

杉木立に囲まれた藁葺き屋根の茶室。樋は、横・縦ともに竹でできており、自然の中に溶け込んだ建物となっていた。建物の周りには飛び石が配してあり、土・石・苔のバランスが、風情を感じさせる。排水のための配管も、目に触れる部分は竹で覆われ、景観を損なわない工夫がなされている。
建物と自然との調和を是非体感していただきたい。

茶席には土間よりあがる茶室となっており、間取りが通常の茶室としては特異である。また、床の前の茶席と大目畳との間は離れすぎており、一般的な茶室で通用する作法が、ここでは成り立たない。
また、正面左にも扉がついており、そちらでも茶をいただくことができたのではと想像される。茶室として、二通りの使い方をしていたと見ていい。路地から茶室への誘導、土間が入り口であるということにより、滑らかに運ばれたようだ。

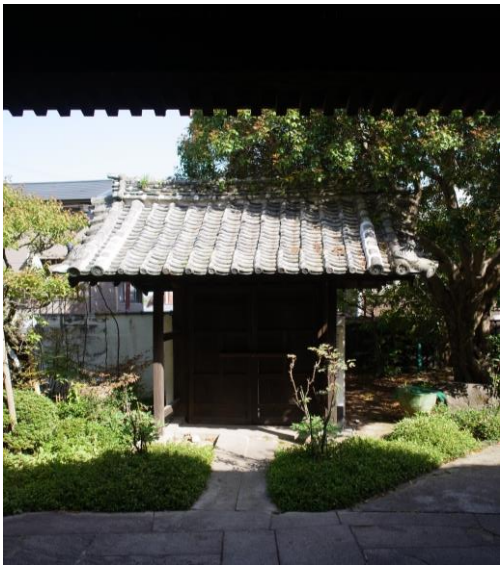
建物名称	仰松軒
建築年	大正12年(1923)に細川忠興の原図に基づ復元
構造・様式	木造
所在地	熊本県熊本市中央区黒髪4-610
電　話	096-344-6753
Ｈ　Ｐ	https://kumamoto-guide.jp/spots/detail/82
開館時間	8時30分～17時00分（入園は16時30分まで）
アクセス	ＪＲ「熊本駅」から車で約25分もしくはバスで約20分 立田自然公園入口下車　徒歩約10分
備考	利用料　高校生以上200円、小・中学生100円、30人以上の団体2割引、障害者手帳をお持ちの方は無料

冨士屋 Gallery 一也百 ーはなやももー

大分県別府市

ふじやぎゃらりー　はなやもも

玄関を見る



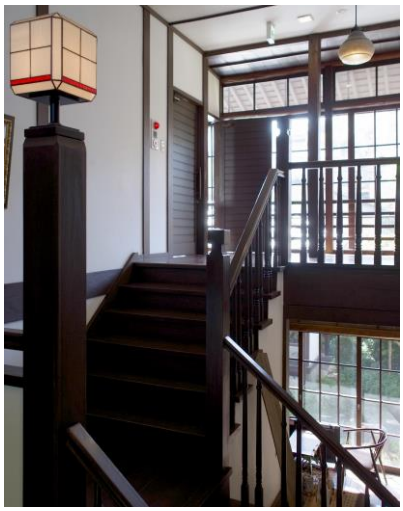
門を見る

見どころ

別府市は西に山、東に海がある。この建物は南へ長いかぎ型の配置をとり、東側の庭越しに別府湾を望む。
入母屋作りの屋根等外部はほぼ当時の姿のままを残す。
内部は一部改装し小屋組を見せるコンサートホール等として活用されている。ほとんどは当時のままで欄間や建具、庭など、いたる所で意匠が凝らされ、特に和室の本格的な書院造りは、床の間など随所で銘木が使われており、いずれも当時の仕事ぶりを堪能することができる。（１階ホールで棟札を見られる）
新築当時は旅館で、県内の旅館人気投票で大分県一となった程。訪れた人達には筑豊の炭鉱王の伊藤伝右衛門、麻生太吉、人形作家歌人の鹿児島寿蔵や高浜虚子、日本画家の小早川修正などと錚々たる名を連ねたことからも格の高さをうかがうことができる。歴史の偉人達が過ごした場所で、築100年を超える建築と庭や景色、樹齢約200年のウスギモクセイを、現代に響く音楽や芸術と共に楽しめる。

2階　明治の和室　貸室として利用

冨士屋旅館　※HPより

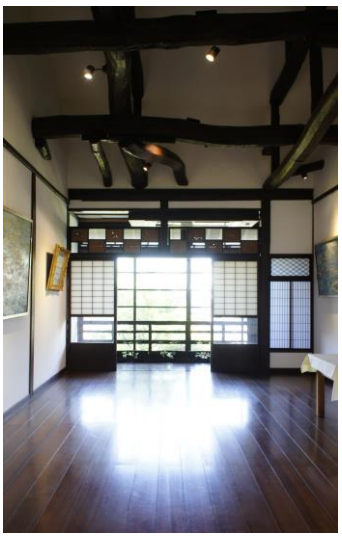


2階へ上がる吹抜けの階段

明治32年に建てられ平成８年まで営業していた当時「冨士屋旅館」は鉄輪温泉の風情を残す明治時代の建物。
一時は老朽化のため取り壊す予定だったものの、この建物を現代に伝えるため、保存、再生し、活用することを目的として平成16年に再スタートしている。コンサートを開くホール、ギャラリー、ショップ「愉しい食卓はなやもも」や、カフェがあり、音楽、芸術、文化、食のイベントを通して、「百年の時を繕い今を愉しむ」ことのできる場所となっている。

2階の一也百ホール

1階のロビー　カフェスペース



2階のギャラリースペース

建物名称	冨士屋Gallery一也百
建築年	明治３２年
構造・様式	木造２階建て・数奇屋
所在地	大分県別府市鉄輪上１
電　話	0977-66-3251
Ｈ　Ｐ	https://www.fujiya-momo.jp
開館時間	10:00～17:00 月火定休（祝祭日･イベント時は営業）
アクセス	別府駅から車で15分、鉄輪バス停から徒歩２分
備　考	国登録有形文化財

旧丸毛家住宅

きゅうまるもけじゅうたく

大分県臼杵市

門から見る

丸毛家住宅は、江戸時代後期の建築様式をとどめる、臼杵市でも数少ない武家住宅の一つである。この丸毛家住宅の敷地は、江戸時代に藩より屋敷地として、代々丸毛家に与えられたものである丸毛家住宅の西側には竹林をのぞみ、南に面したいわゆる「奥」の部屋に隣接する縁側では、ゆったりとした時間を過ごすことができる。

「上之間」「次の間」「下之間」前の縁側

見どころ

玄関は二つあり、建物入口の正面にお客用の「表玄関」、入口入って左側に家族用の「内玄関」がある。「内玄関」には大きなかまどが据えられている。屋敷の内部は大きく「表」と「奥」の二つに分けられており「表」は接客の場、「奥」は家族の生活の場となっている。
「表」は眺めが良く落ち着いた場所に造られており、「奥」は日当たりの良い南側に造られている。接客や体面を重んじた武家の格式を知ることができる建物である。

表玄関

南側に面する縁側

内玄関の土間にあるかまど

内玄関から奥を見る

「上之間」「次の間」「下之間」前の庭から見る

丸毛氏はもともと美濃国（今の岐阜県）の武士で、明智光秀の家臣であった斎藤氏の一族であった。そのため、光秀が羽柴（豊臣）秀吉によって滅ぼされた天正十年（1582）の山崎の合戦では、明智方に味方し敗れたため、長く流浪していたと丸毛家家系図に記されている。

「上之間」

寛永五年（1628）丸毛弥市右衛門忠勝の代に、忠勝の外祖母が稲葉一鉄公（臼杵藩初代稲葉貞通の父）の娘であったため、その縁で三代藩主一通公に元高二百石で召し抱えられ、町奉行役を務める臼杵藩では上級の武家であった。

「仏間」など生活の場を庭から見る

丸毛家住宅は武家の生活様相や文化を理解してもらう公開施設として、また町並み観光の一拠点として活用するため、平成元年に建物の解体修理を行った。その後、平成2年3月16日に臼杵市の有形文化財として指定され、平成15年「昔のくらし」を体験できる施設となった。

建物名称	旧丸毛家住宅
建築年	江戸時代後期
構造・様式	木造平屋・武家屋敷
所在地	大分県臼杵市大字海添字本丁13番地
電　話	0972-86-2725
Ｈ　Ｐ	http://www.city.usuki.oita.jp
開館時間	9:00～17:00（火曜日休館）
アクセス	JR日豊本線臼杵駅から徒歩10分
備　考	臼杵市指定文化財

旧真光寺休憩所

大分県臼杵市

きゅうしんこうじきゅうけいしょ

二王座歴史の道にある旧真光寺

門から見る

この窓からの眺めも素晴らしい

臼杵は、武家屋敷や古い神社仏閣が点在する歴史ある街である。旧真光寺のあるこの地区は臼杵を代表する景観のひとつで、平成5年には国の都市景観100選に選ばれた。旧真光寺は浄土宗本願寺派の支院として、臼杵藩士だった稲川小右衛門の長男·宗適が1716年に開基した寺で、1855年に建立された建物である。1992年に廃寺を改修し、現在は市の無料休憩所として使われており、観光案内も受け付けている。また、随時、展示会なども行わている。改修時には筋違にて構造補強がわれた。道のカーブに沿って建物も曲がり、２本の軸線が通る平面はユニークで、２階の「歴史の道」を見下ろせる座敷には、変形した畳が敷かれている。

見どころ

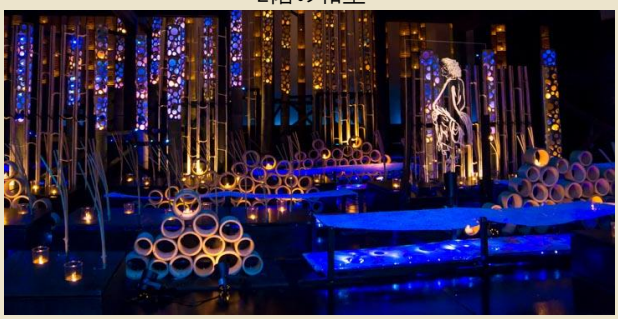
窓から二王座の道を見る

二王座歴史の道は大友宗麟時代から街道筋として役割を果たした道である。臼杵城のお膝元に位置する二王座は、阿蘇山の火山灰が固まってできた凝灰岩の丘で、あちこちの岩を削り割ってつくられた「切通し」の道がある。狭い路地のいたるところにどっしりとした量感溢れる門構えの武家屋敷跡、白壁の土蔵や宗派の異なる歴史ある寺院が軒を連ね、城下町特有の面影を残した地域を窓越しに堪能することが出来る。

広い土間　観光案内のコーナーも設けられている

2階の和室

元本堂だった和室　イベントも行われる



「うすき竹宵」　※「臼杵のえんどうさんちHPより」

毎年11月初めに「臼杵石仏」を造ったと言伝えられている真名長者伝説を再現したうすき竹宵という儀式が行われます。うすきの伝統的な町並みを〝竹ぼんぼり〟の優しい光が包む。この時に旧真光寺休憩所でも写真のような竹ぼんぼりとのコラボが行われ、多くの人々を魅了する空間がつくられている。

建物名称	旧真光寺休憩所
建築年	1855年建立（再生竣工：1992年）
構造・様式	木造２階建
所在地	大分県臼杵市大字二王座
電　話	0972-64-7130（臼杵市観光情報協会）
Ｈ　Ｐ	
開館時間	８：３０　～　１７：００
アクセス	臼杵駅より徒歩約15分
備　考	稲葉家下屋敷前の市営駐車場（有料）

宮崎県総合博物館　民家園

宮崎県宮崎市

みやざきけんそうごうはくぶつかん　みんかえん

南国といわれる宮崎にも険しい山間部や、雪が積もるほどの地域があり、それぞれ地方独特の建築様式をもった民家が多数あった。今から約150年から200年前に建てられたものが【宮崎県総合博物館　民家園】に、移築復元されている。

旧藤田家住宅

旧藤田家住宅は宮崎県北西部の五ヶ瀬町三ヶ所から、昭和52年10月から１年かけて移築復元したものである。
建築年代は、柱に刻まれた文字から天明７(1787)年に建てられたことが分かっており、県内で確認された民家の中で最も古いものである。
復元された平面は、土間なしのヘンヤ(茶の間)とオモテ(客間)の２室で、三方に吹き放ち部をもつ特殊なものである。また、県内の民家のほとんどが外壁を板材で仕上げているのに対して、唯一土塗壁であり、民家としては貴重な文化財といえる。

見どころ

これら４棟の住宅は、中に入って見学することができ、囲炉裏や部屋の設え、燻された高い小屋組などを見ながらゆったりとした時間を過ごすこともできる。また宮崎神宮から民家園、博物館周辺は地域の方々の散歩コース、子どもの遊び場にもなっている。
季節毎にイベントが開催され、四季折々の花々が咲き来訪者を迎える。

旧藤田家住宅内観

旧黒木家住宅内観

米良の民家

米良の民家は、西米良村にあった黒木家住宅を移築復元したものである。この民家は山間の三段石積みの上に建てられていたもので、外観・間取りなどに古い西米良の農家の形が残されている。
また、がっちりした骨組みの馬屋も残っている。
言い伝えにより、文政４(1821)年頃に建てられたとされている。

椎葉の民家

椎葉の民家は、椎葉村にあった清田家住宅を移築復元したものである。この民家は宮崎県北西部に分布する並列型農家の典型で、間取りは部屋を一列に横に並べる形式で、三つの部屋と土間からなっている。また、手前には板縁が通っている。
解体中に発見された墨書きによって、元治元(1864)年に建てられたことが分かっている。
旧黒木家住宅は、霧島山麓の高原町蒲牟田地区から、昭和49年9月から１年かけて移築復元したものである。
建築年代は、解体中に発見された墨書から天保５(1834)年からの２年間であったことが確認されている。
この建物は県南西部に分布していた分棟型農家の典型で、妻入りの土間付きナカエ（茶の間）と平入りのオモテ（広間）の２棟からなっており、テノマ（樋の間）と呼ばれる板間を通して連結されている。

建物名称	宮崎県総合博物館　民家園
建築年	1787年他
構造・様式	木造
所在地	宮崎県宮崎市神宮２丁目４－４
電　話	0985-24-2071
Ｈ　Ｐ	http://www.miyazaki-archive.jp/museum/
開館時間	9:00～17:00
アクセス	・宮崎交通バス：綾・国富方面行き又は平和が丘・古賀総合病院方面行き「博物館前」下車徒歩12分 ・宮崎交通バス：宮崎神宮行き終点下車徒歩12分 ・ＪＲ九州「宮崎神宮」駅より徒歩11分

日向市歴史民俗資料館/旧廻船問屋 河内屋

宮崎県日向市

ひゅうがしれきみんぞくしりょうかん/きゅうかいせんどんや　かわちや

「旧廻船問屋　河内屋」は、美々津重要伝統的建造物群保存地区のほぼ中央に位置し、江戸時代に河内伝作によって作られた。
昭和５５年、当時の所有者から市へ寄贈され、復元された現在は、日向市歴史民俗資料館として開館し、全国的に珍しい河口に面した港のある江戸時代の町家をしのぶことができる。

美々津の町は、古くから海の交易拠点としての歴史があり、美々津を経済面から支えたのは廻船業者たちであった。廻船業者たちは、美々津の河口に注ぐ耳川上流で生産された木材や木炭などを大阪方面に向け出荷し、その帰路には、関西方面の特産品や美術工芸品を持ち帰り、文化交流の担い手としての一面もあった。

この建物は、広い間口をもち、通し庇が設けられ、正面には漆喰の塗壁に「京格子」「虫籠窓」などが設けられ、京都や大阪の町家造りが取り入れられている。間口の広さで課税された時代に、これだけの間口をもつことから、美々津でも屈指の廻船問屋であったことがわかる。

見どころ

廻船問屋だけに、船大工たちの手によって建てられた河内屋には、耳川上流で生産された良質な木材が使用され、随所に船大工の技をみることができる。
部屋によって天井の高さを変えるなど贅沢なつくりから繁栄ぶりが伺える。

「ざしき」は賓客用の部屋、趣味室として意匠を凝らされ、広い窓からは、中庭の枯山水が見える。
枯山水には、石や島の配置によって、三尊仏や鶴亀を表現したり、不老不死の仙人が住むという蓬莱島に見立てたりする石組がある。こちらの石組は、長寿祈願や験担ぎが込められた「亀島」である。
（左側が亀の頭）

＜１階の間取り＞
通り庭をもち「ざしき」「なかのま」「みせ」「土間」が通り庭に沿って２列に配置されている。
土間の三和土（たたき）は、貝殻、粘土、石灰で作られ、今では再現不能な貴重なものである。

＜２階＞
１階の天井高が部屋ごとに変えられているため、二階の床高が部屋によって違っている。それにより面白い空間が構成されている。また、窓からは日向灘が見え、気持ちよい風が入り、いつまでも居たい空間でもある。

＜バンコ＞
美々津の建物の多くは、通りに面して「バンコ」と呼ばれる跳ね上げ式縁台が設けられている。開いてイスや台として、たたんで雨よけとして活躍する。

町人が二階を作ることは「武士を見下ろす」として禁止されていた。

←外観を平家に見せるため二階の天井は低く抑えられ、船底をひっくり返した造りとなっている。

←二階の窓には「虫籠窓（むしこまど）」を設け、外部から内部を見えにくくし外観上は平家を装っている。

建物名称	日向市歴史民俗資料館
建築年	1855年（江戸時代　安政２年）
構造・様式	木造２階建・町家
所在地	日向市美々津町3244番地
電　話	0982-58-0443
Ｈ　Ｐ	https://www.hyugacity.jp/display.php?cont=140317143907
開館時間	9時～16時30分（休館日：毎週月曜日　年末年始）
アクセス	日豊本線美々津駅から徒歩約25分 宮崎交通バス「立縫の里」停留所から徒歩2分 東九州自動車道日向ＩＣから車で約20分
入館料	大人：210円　こども(小･中･高)100円 団体20名以上2割引
備　考	市指定文化財（伝統的建造物）

霧島創業記念館「吉助」

宮崎県都城市

きりしまそうぎょうきねんかん　「きちすけ」

本館正面（東面）

「霧島創業記念館　吉助」は、都城市川東の本社内にあった建物を解体移築したものである。
大正13年の築と言われ、昭和４０年に現在の社屋が建てられるまでは、霧島酒造の前身である川東江夏商店、そして霧島酒造の社屋として使われて来た。表の広い土間は店の売り場で、開業当時は焼酎のほか米穀や肥料など扱っていたようである。奥間は主人一家の住居になっていた。移築の際、一部補修、補強等を行なったが、ほとんど当時の材木をそのまま使用していて、大正時代の商家の面影が残っている。

見どころ

外観が一部洋風になっており全体の和風外観とミスマッチなところがエキゾチックである。休憩スペースは落ち着きのある心安らぐ空間になっている。小屋組みを現わしたギャラリーの吹き抜け天井も見応えがある。

本館南面

土間にある休憩スペース

小屋組を見せた土間の吹き抜け天井

住居部分であった和室の床の間と欄間の風景

和室は田の字式間取りで、連続の部屋になっている。欄間には技術と趣向が凝らしてあり美しい。庭園を眺められる、廊下（縁側）も見事である。縁側の奥にはこの建物唯一の洋間があり、碁天井造りである。

廊下（縁側）の様子

奥の住居部分は一般開放はされておらず、和室は土間から眺める。日本を代表する女性棋士による将棋の棋戦、「霧島酒造杯女流王将戦もこの記念館特設会場で開催されている。

縁側奥にある洋間の碁天井

本建物は霧島ファクトリーガーデン内にあり、他にも霧の蔵ブルワリーやベーカリー、ミュージアムの他、霧島焼酎神社、等がある。

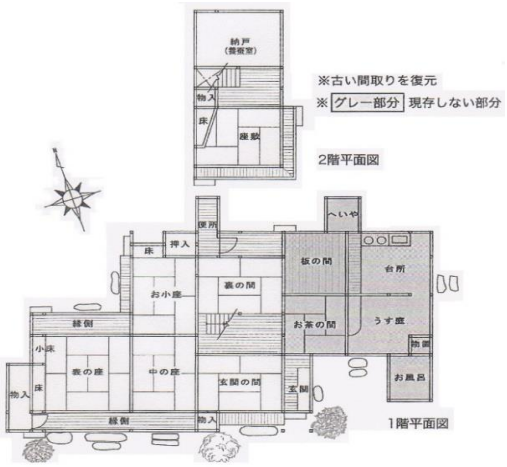
建物名称	霧島創業記念館「吉助」
建築年	大正13年
構造・様式	木造平屋・入母屋造り
所在地	宮崎県都城市志比田町5480番地 霧島ファクトリーガーデン敷地内
電　話	0986-21-8111
Ｈ　Ｐ	https://www.kirishima-fg.jp/kichisuke
開館時間	9:00～17:00
アクセス	都城インターチェンジより車で15分　駐車場有

赤尾木城文化伝承館　月窓亭（種子島邸）

鹿児島県西之表市

あかおぎじょうぶんかでんしょうかん　げっそうてい（たねがしまてい）

建物外観



出典:月窓亭パンフレット

月窓亭は1793年、種子島家家老職を務めた花道師範家･羽生道潔（はぶみちきよ）が27歳の時に建造した建物。　孫である慎翁(しんのう)は、梅陰亭月窓(ばいいんていげっそう)と号し、1882年池之坊大日本総会頭職を務め、池之坊を全国に広めた。この住宅は慎翁が花道修行を行った屋敷である。　慎翁の生活が東京中心となった為、種子島家旧家臣団の要請をうけた27代種子島守時公がこの屋敷に移住した。以来この屋敷は「お屋敷」と呼ばれ、種子島の誇りとして人々の心の拠り所となった。

見どころ

種子島の武家屋敷は基本的に玄関がない。月窓亭の玄関も狭く質素な造りである。またこの部屋で刀を振り上げることができないよう天井を低くしている。このことは天井が高い奥の間を広く見せる効果もある。種子島の気候に適した建材として、硬質で湿気やシロアリに強い性質を持つ種子島産「ひとつ葉の木」(イヌマキ)が使用されている。

南側外観

玄関の間

２階座敷

石垣

門

月窓亭は台所部分が欠損しているものの、赤尾木城にほど近く、風格、書院の造りなど優れている武家屋敷である。種子島は武家社会南限の地であり、さらに珊瑚塊を積み上げる石垣文化の北限。門構えや屋敷、庭園などに種子島の独自性があるが、概して薩摩武家文化の様相を呈している。

２階座敷より

縁と表の座

東側外観（玄関）

建物名称	赤尾木城文化伝承館　月窓亭（種子島邸）
建築年	1793年（寛政5年）
構造・様式	木造平屋一部二階建、瓦葺き
所在地	鹿児島県西之表市西之表7528
電　話	0997-22-2101
Ｈ　Ｐ	http://gessoutei.blogspot.jp/
開館時間	9:00～17:00（毎月25日休館･7,8月無休）
アクセス	西之表港から車で5分　駐車場あり
備　考	西之表市指定文化財

旧増田家住宅

きゅうますだけじゅうたく

鹿児島県薩摩川内市

建物外観

敷地は延命院跡と伝えられ、1867(慶応3)年に寺子屋が開かれたが廃仏毀釈により、寺子屋は現在の入来小学校の地に移されている。

屋敷入口にある石敢当の刻銘から、母屋は1873(明治6)年頃に建築されたと考えられており、構造材の一部には、延命院の部材を転用したと思われる痕跡を残している。

別棟型民家として「おもて」と「なかえ」を「樋の間」で繋ぐ形式など随所に武家住宅としての特徴がみられる。建築主は代々、眼科医を営んでおり、この建物でも治療を行っていた時期があった。

平成21年度、市が土地と建物の寄贈を受け、平成22年度から3ヵ年をかけて保存修理工事を実施した。平成26年12月、重要文化財（国有形文化財）の指定を受ける。

石蔵

浴室便所

見どころ

修理前は瓦葺であったが、復原調査の際、母屋の桁から茅葺であったことを示す「サス穴」の痕跡が確認され、母屋は茅葺屋根に復原されている。

茅葺を支えるダイナミックな小屋組や、復原工事の際用いられた「金輪継ぎ」等の伝統的技法は、当時の建築技術の高さを今に伝えている。

小屋組

金輪継ぎ

釘かくし

漆器類

【おもて】

主として接客空間として使用され、主人が普段生活する場である。

建築主は眼科医を営んでいたため、当時は診療の場でもあった。

【樋の間】

竹を組み合わせた樋で、棟と棟を繋ぐ空間である。

床は板張りで、それぞれの棟の雨水を竹樋で受けて流している。

【なかえ】

居間兼食堂として使用され、炊事等を行う土間があり、かまどなどが置かれていた。

隣接する洗い場には、清色城跡の土居の湧水を、竹で水場へ引いた痕跡を残している。

おもて

樋の間

なかえ

洗い場

建物名称	旧増田家住宅
建築年	1873年（明治6年）頃
構造・様式	寄棟造、茅葺
所在地	鹿児島県薩摩川内市入来町浦之名77番
電　話	0996-44-4111
Ｈ　Ｐ	http://satsumasendai.gr.jp/spotlist/21641/
開館時間	9:00～17:00（月曜休館）※入館16:30まで
アクセス	JR川内駅からバスで45分「入来麓」下車 徒歩5分
備　考	国登録有形文化財

鹿児島県民教育文化研究所

かごしまけんみんきょういくぶんかけんきゅうしょ

鹿児島県鹿児島市

建物外観

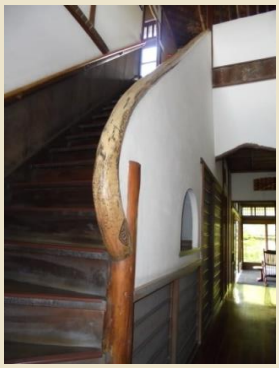
敷地は江戸末期、重富島津家(篤姫の母方)の上屋敷跡である。
建築主である藤武呉服店・藤武喜助氏が、宮大工・渕之上喜助氏と3年ほどをかけて建築。1939(昭和14)年、自邸として竣工する。
戦後は料亭や宿泊施設として使用されていた時期がある。
1981(昭和56)年には、初代所長・椋鳩十氏を迎え「鹿児島県民教育文化研究所」が設立された。
外観と庭園は純和風、内部は床の間を備えた書院造りの和室から、暖炉を据えたアールデコ様式の洋室まで多様な造りとなっている。
平成25年12月、家屋と土蔵が文化庁登録文化財の指定を受ける。

庭　園

中　庭

見どころ

素材の面白さを活かし、形式にとらわれない「数寄のこころ」を随所の納まりに見て取ることができる。
建築主である藤（富士）と武（竹）にかけたモチーフが、欄間やガラス細工など随所にちりばめられている。
見るたびに新しい発見がある。



曲木細工

格子窓

竹細工

欄間(藤)

ガラス細工(富士)

欄間(竹)

【玄　関】
看板文字は初代所長・椋鳩十氏の書。
玄関の間をぬけると、クスノキの繊細な寄木細工床が迎える。

【応接室】
暖炉を据えたアールデコ様式の応接室と、モザイクタイルを敷き詰めたサンルームからなる。戦後、ダンスパーティ等にも使用。

【表座敷】
長押を配し、床の間や書院棚を備えた書院造りの14畳と10畳の続き間の和室。続き間部分は、2間半の柱間をもつ大空間である。

玄　関

寄木細工床

暖　炉

サンルーム

モザイクタイル

表座敷

建物名称	鹿児島県民教育文化研究所
建築年	1939年（昭和14年）
構造・様式	木造平屋一部2階建、瓦葺
所在地	鹿児島県鹿児島市春日町4-60
電　話	099-247-4514
Ｈ　Ｐ	
開館時間	9:00～16:00（土日・祝日休館）※入館15:30まで
アクセス	鹿児島市営バス「大龍小学校前」下車　徒歩3分
備　考	国登録有形文化財　※見学時要連絡

中村家住宅

なかむらけじゅうたく

沖縄県北中城村

中村家住宅は戦前の沖縄の住居建築の特色をすべて備えている建物である。
現存する建物は18世紀中頃に建てられたと伝えられ、建築構造は、鎌倉・室町時代の流れが見えるが、各部に特殊な手法が加えられている。
屋敷は南向きの緩い傾斜地を切り開いて建築している。

魔除けシーサー

見どころ

沖縄本島内でこのように屋敷構えが当時のまま残っている例はきわめて珍しく、上層農家の生活を知る上にも貴重な遺構であるいうことで、昭和31年に琉球政府から、昭和47年には日本政府によって国の重要文化財に指定された。沖縄の気候に適した、先人たちに知恵が詰まった住宅である。
中庭と縁側（雨端：アマハジ）、そして和室へと流れる沖縄の南風を感じてもらいたい。

【ウフヤ（母屋）】
一番座（客間）、二番座（仏間）、三番座（居間）となっている。
裏には各一間づつ裏座があり、寝室や産室として使用された。
畳間は、すべて六畳かそれ以下で、当時の農民にはその大きさしか許されていなかった。

三番座（居間）

二番座（仏間）

一番座（客間）

【アシャギ（離れ屋敷）】
当時、近くの中城間切（現在の中城村と北中城村）の番所へ、首里王府の役人が地方巡視に来た際に、宿泊所として使用したようである。　軒裏で建物の仕上げが異なり、アシャギ（離れ屋敷）は、木板で仕上げられている。ウフヤ（母屋）は葺き土の下地に竹をそのままで施している。軒裏の仕上がりで位を表している。

建物名称	中村家住宅
建築年	18世紀中頃
構造・様式	木造平屋
所在地	沖縄県北中城村字大城106
電　話	(０９８)935-3500
Ｈ　Ｐ	http://www.nakamura-ke.net/
開館時間	午前9時～午後5時30分（火曜休館）
アクセス	沖縄自動車道　那覇I.Cより15分
備　考	国指定重要文化財